



「特別の教科 道徳」が小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から始まります。管内の小・中学校でも「考え・議論する道徳」を目指して、意欲的な授業が実践されています。今回は、その中から3つの事例を紹介いたします。「道徳科」の授業のポイントと併せて、それぞれの授業のよさを感じていただき、今後の指導に役立てていただければ幸いです。

### 「道徳科」授業のポイント

**基盤:信頼関係や温かい人間関係を基盤とした、共感と秩序のある集団づくりを目指しましょう。**

すべての児童生徒にとって居心地がよく、自他を尊重し、安心して本音で語り合える集団づくりが大切です。

**○道徳的諸価値について、主体的に考え、自分なりに理解・納得できるようにしましょう。**

教師は、本時で考えさせたい道徳的価値の内容を明確にするとともに、児童生徒自らが問題意識をもてるように配慮しましょう。道徳的価値の意義や大切さの理解は、客観的・観念的に理解することではなく、自分のこととして捉え、自分なりの考え方として理解するものです。児童生徒が、本時の学習で感じたことなどを自らまとめることが大切です。

**○自己を見つめ、自己(人間として)の生き方について考えを深められるようにしましょう。**

読み物資料の登場人物の心情理解や共感に留まらず、道徳的価値を自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やその時の考え方、感じ方と照らし、更に考えを深めるとともに、自己(人間として)の生き方を強く意識させることが大切です。

**○探究的な話し合いで、多様な感じ方・考え方に触れ、多面的・多角的に考えられるようにしましょう。**

児童生徒同士や教員・地域の人、先哲との対話や協働により、価値や生き方を探究できるようにしましょう。自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることが大切です。

**中心発問** 『それぞれを選んだあとの気持ちは?』で意見交換。

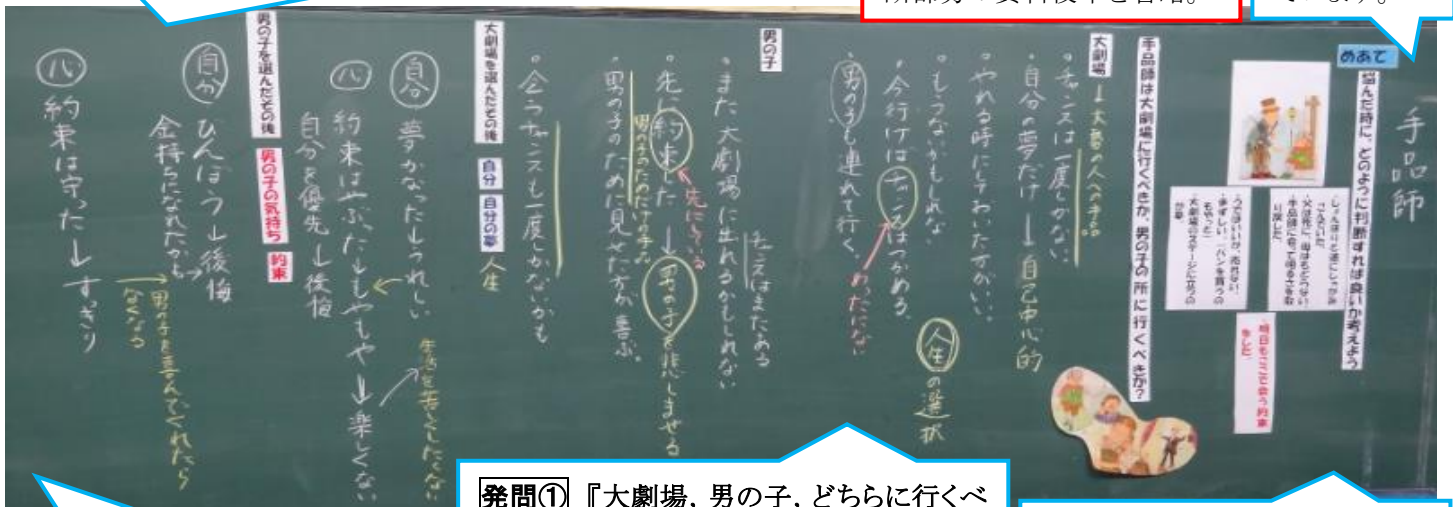
- 「約束と、人生の選択では話の大きさが違う。」
  - 「貧乏でも、約束を守ったことですっきりできる。」
  - 「もやもやするけど、夢をかなえたうれしさのほうが大きい。」
  - 「夢をかなえても、約束を破った後悔があれば、幸せと言えるか。」
- このように、児童は自分のこととして考え、児童同士で議論しています。

**実践例① 小学校第5学年**

主題名 **「誠実な心で」**  
内容項目 **「正直、誠実」**  
資料名 **「手品師」**

児童が自分のこととして考えられるように、手品師の決断部分の資料後半を省略。

**導入** 『今までに本気で悩んだことは?』で、児童は自分の体験を想起しています。



**まとめ** 児童は授業で思ったことや自分の生活に生かせることなどを振り返っています。

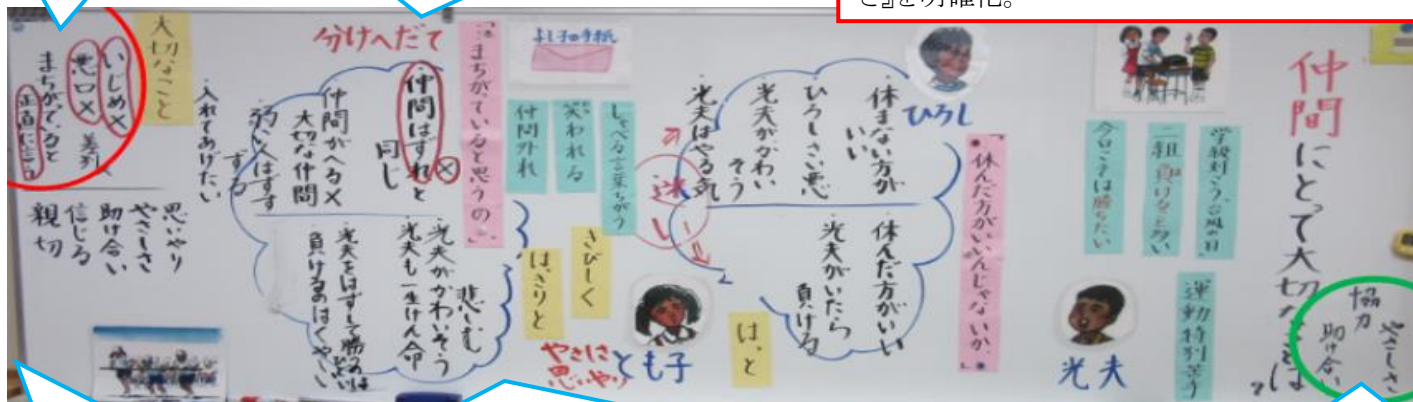
**発問①** 『大劇場、男の子、どちらに行くべきか?』で意見交換。「約束を守る(誠実)」「人生の選択(夢)」「相手の気持ち」など、多様な考えが出る中、児童は「約束を守る」ことをめあてと結び付けていきます。

**めあて** 『悩んだ時に、どのように判断すればよいか考えよう』が明示。児童は「何について考えるのかな」と関心を高めています。

**まとめ** 『仲間にとって大切なことは？』について、児童は今日学習したことをもとにグループで話し合っています。

**発問②** (道徳的価値の焦点化)  
『とも子の言う間違いって何かな？』  
「仲間はずれ」「差別」⇒「分けへだて」  
**発問③** (自分のこととして考えさせる)  
『もしあなたがとも子だったら、言える？』  
「自信がある…数名」「自信がない…多数」

**実践例② 小学校第4学年**  
主題名 「公正、公平な態度で」  
内容項目 「公正、公平、社会正義」  
資料名 「同じ仲間だから」  
児童の実態等から、授業で考えさせたいこと『相手の気持ちを考え、同じ態度で接することの大切さ』を明確化。



**振り返り** 構造化された黒板も利用しながら、児童は「仲間はずれ」について、今までの自分・これからの自分という視点で考えたことを書いています。

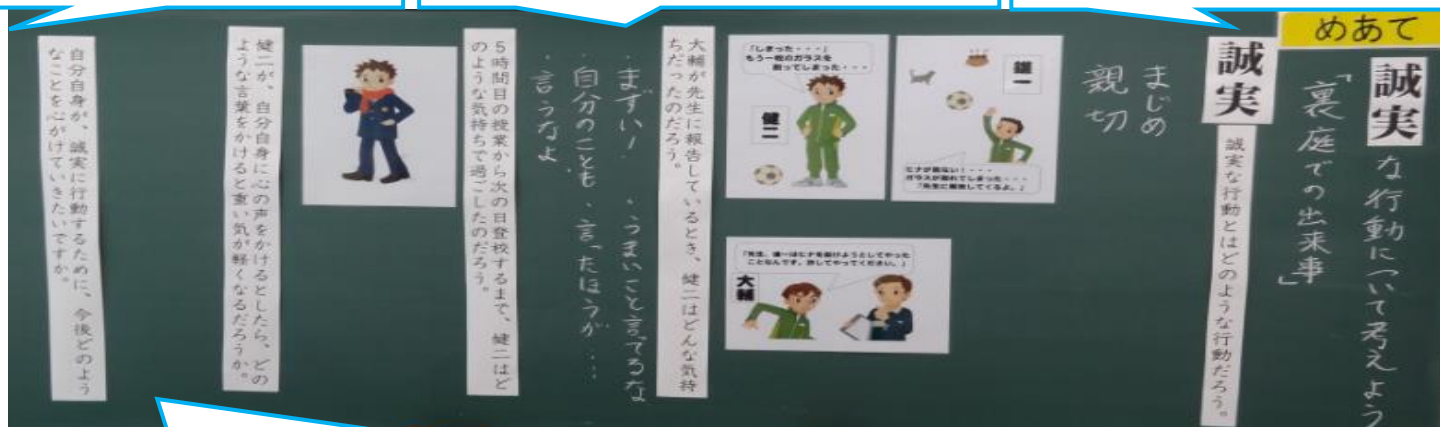
**中心発問** 『どんな気持ちで間違っていると聞いたか？』  
「仲間はずれにされたら、光夫がかわいそう。」  
「光夫をはずすと、仲間がへってしまう。」  
**教師**『へるのはいけないの？』 「いいことじゃないでしょう。」  
「光夫が指をけがしていることをねらって、外して勝とうとするのは、ひきょう。」 このように、揺さぶる発問をするなど、教師が適切にコーディネートするなかで、児童同士が議論しています。

**めあて** 『仲間にとって大切なことは？』が明示。児童は「協力する」「助け合う」だけでなく、さらに大切なことは何かを課題として捉えています。

**まとめ** 生徒は自分自身を振り返り、「誠実」について感じたこと、考えたことをワークシートに記入し、発表しています。

**発問①②** 健二の心情を考える中で、生徒は雄一や大輔の立場になったり、「自分だったら先生に言うよ」と発言したりするなど、自我関与をしながら、多面的・多角的に考えています。

**めあて** 『誠実な行動とはどのような行動だろうか？』が明示。生徒は、「親切」「まじめ」など自分なりの思いを想起しています。



**中心発問** 主体性を意識し『自分自身にどんな心の声をかけると気が軽くなる？』  
「本当のことを言ったら大輔との関係が悪くなる。少くらしい嘘をついても。」  
「思い切って言ったほうがすっきりする。雄一もわかってくれる。」  
「そのほうが、自分のためにも、雄一のためにもある。」  
「でも、大輔の立場は悪くなり、自分も怒られる。友人関係も悪化する。」  
「大輔を説得して、3人で謝れば、友人関係も壊れないのではないか。」  
このように、生徒は自分のこととして考え、生徒同士で意見をつなげて議論しています。

**実践例③ 中学校第1学年**  
主題名 「誠実な生き方」  
内容項目 「自主、自律、自由と責任」  
資料名 「裏庭での出来事」  
生徒が自分のこととして考えられるよう、中心発問を工夫。